

健康相談活動の充実に向けた研究

— 健康相談活動シートの活用による「自分らしい意思決定・行動選択」を目指して —

吉田 沙緒里¹

保健指導を担っている養護教諭が行う健康相談活動は、生徒にとって重要である。本研究では、養護教諭が作成する健康相談活動シートを活用し、不定愁訴のある生徒に対し健康相談活動を行った。健康相談活動シートを活用し、生徒の話や状況をまとめ、見立てや生徒が「自分らしい意思決定・行動選択」をするための目的、方針、具体的な支援策を考える取組を通して、健康相談活動の充実を図った。

はじめに

新型コロナウイルス感染拡大の影響など変化が大きい現代社会の中で子どもたちは生活している。

学校保健安全法第8条に「学校においては、児童生徒等の心身の健康に関し、健康相談を行うものとする。」と健康相談が位置付けられている。保健体育審議会答申では「養護教諭は、児童生徒の身体的不調の背景に、いじめなどの心の健康問題がかかわっていること等のサインにいち早く気付くことのできる立場にあり、養護教諭のヘルスカウンセリング（健康相談活動）が一層重要な役割を持ってきている。」と示されている（文部科学省 1997）。

また「現代的健康課題を抱える子供たちへの支援～養護教諭の役割を中心として～」では、「『心身の健康に関する知識・技能』『自己有用感・自己肯定感（自尊心）』『自ら意思決定・行動選択する力』『他者と関わる力』を育成する取組を実施する。」とされている（文部科学省 2017 p. 1）。その中の「自ら意思決定・行動選択する力」については、「児童生徒が、『自分なりの不安や悩みの解決策』『自分らしい意思決定』ができるようにするため、健康相談や保健指導を通して、自分について見つめたり、考えたりすることを支援する。」と示されている（文部科学省 2017 p. 4）。

先行研究では「中学・高校生は思春期の発達段階の観点から、思春期危機と言われ、心理的危機に陥りやすい時期であり、心的要因による健康問題を抱える生徒に対する養護教諭が行う健康相談・健康相談活動による継続支援の重要性が示唆される。」と述べられている（菊池他 2018 p. 27）。心的要因による身体的不調には継続的な健康相談活動が重要であると述べられていることから、身体の異常はないが、体調不良を繰り返す不定愁訴のある生徒にも有効ではないかと

考える。そして「生徒自身の困り感を、生徒自らの言葉で発信できるヘルスアセスメントシートは、困り感が明確になり、具体的な支援に直結する有効なツールであることが分かった。」と述べられている（城所 2014 p. 53）。このことから、生徒の困りを支援につなげるためにシートが有効であるといえる。

中学生はアイデンティティ確立の時期を迎え、心と体の変化に伴い、思春期特有の不安定さがときに不定愁訴として表れやすい。

養護教諭としてこれまで不定愁訴のある生徒の見立てや対応に苦慮した経験がある。保健室への来室の背景は様々な理由が考えられるため、保健室の中だけでは多面的な実態把握につながらない可能性があり、生徒を適切に見立てることは難しい。生徒自身が身体的不調の要因に気づき、困りの解決策を考えることが、養護教諭としては重要であると考え。つまり、生徒が身体的不調の背景にあるものを捉え、気持ちに折り合いをつけ、なりたい状況を考え、できる範囲の解決策を考え、行動することで、不定愁訴を解消し、健康的な生活を送ることが重要ではないかと考える。

そのためには一人ひとりの生徒に応じた、きめ細やかな対応が必要であり、その手立てとして健康相談活動シートの作成を考えた。養護教諭が健康相談活動シートに生徒の話を記録し、まとめ、見立て、「自分らしい意思決定・行動選択」ができる具体的な支援策を考え実施していくことで、不定愁訴のある生徒の健康相談活動が充実できると考えた。なお、本研究では「自分らしい意思決定・行動選択」を働きかけるとは、養護教諭が行う健康相談活動により、生徒が自分の身体的不調は心的要因が影響していることに、気づき、捉え、気持ちの折り合いをつけることや自分のなりたい状況、できそうな行動を選択できるように働きかけることとする。

研究の目的

1 茅ヶ崎市立中島中学校
研究分野（一人ひとりのニーズに応じた教育研究
支援教育）

不定愁訴のある生徒に対し、養護教諭が健康相談活動シートを活用し、生徒自ら「自分らしい意思決定・

行動選択」ができるようになる働きかけを通して健康相談活動を充実させることを目的とする。

研究の内容

1 仮説

不定愁訴のある生徒に対し、養護教諭が健康相談活動シートを活用し、生徒自ら「自分らしい意思決定・行動選択」ができるようになる働きかけを通して健康相談活動が充実するのではないかと。

2 健康相談活動シートの対象生徒

保健室に来室した生徒は、来室カードに自覚症状、生徒自身が考える自覚症状の要因、検温結果等を記入する。身体症状はあるが、原因が分からない不定愁訴のある生徒に対し、健康相談活動シートを用いた健康相談活動を行う。

3 健康相談活動シート作成のための事前調査

(1) 目的・方法等

全教員（中学校、管理職を含む、以下教員とする）を対象に事前調査を行った。目的等については第1表のとおりである。

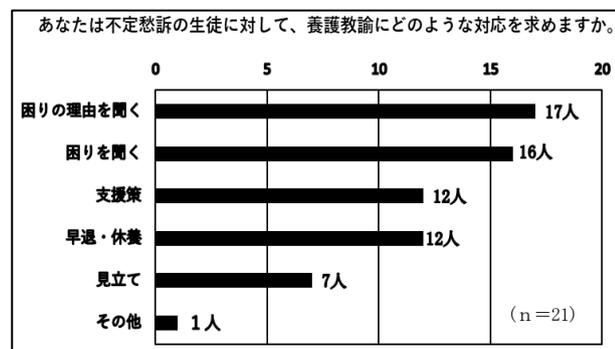
第1表 事前調査の対象と目的

方法	対象	時期	目的
質問紙調査	全教員	令和2年8月末～9月初旬	健康相談活動を行った生徒の情報活用の状況や養護教諭に求める生徒の対応を把握
	養護教諭		健康相談活動の課題と現状を把握

(2) 結果

教員を対象とした調査からは、養護教諭による不定愁訴のある生徒に関する情報を活用している教員がいることが分かった。

教員が不定愁訴のある生徒に対し養護教諭にどのような対応を求めるか調査した結果を第1図に示した。



第1図 養護教諭に求める不定愁訴のある生徒への対応

教員への調査から、養護教諭に求める不定愁訴のある生徒への対応は、「困りの理由を聞く」「困りを聞く」「具体的な支援策と一緒に考える」「早退・休養の対応」ということが分かった。このことから、養護教諭が行う健康相談活動の中で、生徒の困りやその理由を聞き具体的な支援策を考える必要があると考えた。

養護教諭へは、健康相談活動の中でどのような課題があるか調査を行った。その結果、「不定愁訴のある生徒が心的要因に気付くための支援を考えることや支援を行うことの難しさを感じている」「生徒の話を聞いた後、メモをまとめているが、時間がかかり、後で見返したり、報告するときに分かりにくい」ということが分かった。養護教諭には支援策を考え実施することと記録のまとめ方に課題があると考えた。

4 健康相談活動シート作成

養護教諭が健康相談活動の中で行う、生徒が「自分らしい意思決定・行動選択」ができる具体的な支援策を考えるためには、養護教諭が健康相談活動の中で情報をまとめ、見立てができるようなシートが有効であると考えた。そこで筆者の課題を踏まえ、事前調査の結果を参考に、見立てができ、生徒自ら「自分らしい意思決定・行動選択」ができる健康相談活動の目的や方針、具体的な支援策が考えられる健康相談活動シート（以下シートとする）を作成した（第2図、第3図）。さらに情報をまとめやすく、活用が行いやすいことも意識した。

①困り・嫌なこと・心配なこと	②理由	
③困りに対しての生徒の要望・気持ち	④プラスな気持ち	⑤生徒の表情・様子（事実）
⑥話すす中の生徒の気持ちの変化	⑦気持ちの変化の理由	⑧生徒が困りに対して行ったこと
⑨引継ぎ・教職員からの情報		⑩その他・メモ

養護教諭の働きかけ（具体的な支援）	生徒の反応、気持ち (😊 😊 😊 😊 😊) を聞く
-------------------	---------------------------

現在の状況（見立て） （原因不明も可）	
健康相談活動の目的	生徒が心的要因であることを自分の事として捉えるようにする 生徒が気持ちに折り合いをつけられるようにする 生徒がなりたいたい状況を考えられるようにする 生徒が自分でできる範囲内の解決策を考えられるようにする
健康相談活動の方針	
健康相談活動の具体策	
協力してくれる先生	養護教諭 生徒

第2図 健康相談活動シート（表面）

月 日 ()	
養護教諭の働きかけ(支援の具体)	生徒の反応、気持ち(☺☹☺☹☺)を聞く
メモ	

月 日 ()	
養護教諭の働きかけ(支援の具体)	生徒の反応、気持ち(☺☹☺☹☺)を聞く
メモ	

月 日 ()	
養護教諭の働きかけ(支援の具体)	生徒の反応、気持ち(☺☹☺☹☺)を聞く
メモ	

月 日 ()	
養護教諭の働きかけ(支援の具体)	生徒の反応、気持ち(☺☹☺☹☺)を聞く
メモ	

月 日 ()	
養護教諭の働きかけ(支援の具体)	生徒の反応、気持ち(☺☹☺☹☺)を聞く
メモ	

第3図 健康相談活動シート(裏面)

シートは養護教諭が生徒の話や様子等を記入して活用する用紙である。養護教諭だけでも、情報をまとめ、見立て、健康相談活動の目的、方針が立てられ、具体的な支援策を考えられように、生徒から聞き取る内容を10項目とした(第2表)。養護教諭がまとめた情報から、具体的な支援策まで系統的に考えられるように項目を配置し、1枚で収まるシートを考えた。さらに裏面には養護教諭の働きかけとそれに対する生徒の様子が記入できるようにした。不定愁訴のある生徒は来室が長期化するため、経過を迫るように工夫した。

第2表 シートの聞き取り項目の内容

①困り・嫌なこと・心配なこと	⑥話す中での生徒の気持ちの変化
②理由	⑦気持ちの変化の理由
③困りに対して生徒の要望・気持ち	⑧生徒が困りに対して行ったこと
④プラスな気持ち	⑨引継ぎ・教職員からの情報
⑤生徒の表情・様子(事実)	⑩その他・メモ

(1) 聞き取り項目の設定理由

「①困り・嫌なこと・心配なこと」「②理由」は、身体的不調の要因を明らかにするためと、教員の事前調査から養護教諭に求める不定愁訴のある生徒への対応の上位であることから、項目を設定した。また「②理由」は、困りの理由が様々であることから、枠を大きくした。「③困りに対しての生徒の要望・気持ち」は、養護教諭が受容的に生徒の話聞くことで、ありのままの自分を受け止めてもらえたと生徒に実感してもら

い、今後の健康相談活動の中でも、生徒が本心を話せるように項目を設定した。「④プラスな気持ち」は、生徒の好きなことや得意なことを書く欄である。好きなことや得意なことを話すことは、生徒の前向きな気持ちを引き出すことにつながる。この前向きな気持ちが、困りの解決や「自分らしい意思決定・行動選択」のための生徒自身の原動力にもなると考えた。また見立てや方針等を立てるための参考になると考え項目を設定した。「⑤生徒の表情・様子」は、非言語で表している生徒の気持ちを推し量るために項目を設定した。「⑥話す中での生徒の気持ちの変化」「⑦気持ちの変化の理由」は、健康相談活動を通して生徒の変化とその理由を書く欄である。会話や会話の雰囲気等を通して、生徒の変化を感じ取り、言語化して生徒に伝えることで、生徒が自身の変化に気付くと考えられるため項目を設定した。「⑧生徒が困りに対して行ったこと」は、言動に至る気持ちや置かれている状況を理解し、さらに生徒の行動傾向を把握することで、今後の方針等の参考にするために考え項目を設定した。「⑨引継ぎ・教職員からの情報」により、多面的な実態把握ができ、見立てや具体的な支援策を考えられるように項目を設定した。「⑩その他・メモ」はシートを作成している時に養護教諭が気になったこと、保健室以外で過ごす生徒の姿等を記入できるように項目を設定した。

(2) 健康相談活動の目的の設定理由

目的は生徒に応じた方針や具体的な支援策を考えるための柱になる。生徒自ら「自分らしい意思決定・行動選択」ができるようになる働きかけのために健康相談活動の目的を4つ設定した(第3表)。

第3表 シートの健康相談活動の目的

A 生徒が心的要因であることを自分の事として捉えるようにする
B 生徒が気持ちに折り合いをつけられるようにする
C 生徒がなりたい状況を考えられるようにする
D 生徒が自分でできる範囲内の解決策を考えられるようにする

「A 生徒が心的要因であることを自分の事として捉えるようにする」は、生徒が身体的不調は心的要因が影響していることに気付くために設定した。身体的不調は心的要因によるものと捉えられれば、目的B、C、Dのきっかけになり、自己理解につながると考え設定した。「B 生徒が気持ちに折り合いをつけられるようにする」は、今よりも少しでも苦しさが楽になり、自分の着地点を見つけられるように設定した。「C 生徒がなりたい状況を考えられるようにする」「D 生徒が自分でできる範囲内の解決策を考えられるようにする」は、次の理由で設定した。自分が抱える問題を解決できない、解決したいが解決方法が分からない生徒等もいる。健康相談活動の中で、生徒が養護教諭と話すことでなりたい状況を考える(目的C)ことは、解決策を考え

る準備になるのではないか。解決できる見通しを持ち、自分ができる範囲内の解決策を考え（目的D）、行動に結びつくと考えた。

5 シートを活用した健康相談活動

令和2年9月から10月にシートを活用した健康相談活動を次の流れで実施した。

(1) シートに情報をまとめる

シート聞き取り項目①～④はこれまでの来室で知り得た生徒の情報を記入する。⑤～⑧は健康相談活動での生徒とのやりとりを中心に情報をまとめる。生徒が話していない部分については、生徒の様子を観察しながら質問をしていく。その際には、生徒の話すペースに合わせ、うなずき、相づちを打ち、生徒の表情や仕草などの非言語にも注目しながら会話を促す。観察した表情や仕草を⑤に記入する。養護教諭は会話を要約し繰り返すことで、話を聞いているという姿勢を示すと共に、シートにまとめた内容を生徒に確認する。そして生徒は何を訴えているのかを考えながらシートに情報をまとめる。⑨は教員からできるだけ情報を得てまとめる。

例えば、養護教諭の受容的な対応により「1人になりたい」や「安心できる場所が欲しい」という誰にも話せなかった自分の気持ちを話すことができた生徒もいた。

(2) 見立てを決定する

見立てる際には、シートにまとめた生徒の話だけでなく、何が生徒の課題になっているのかを考えながら、養護教諭が重要だと考える項目に着目し、⑨引継ぎ・教職員からの情報と⑩その他・メモにある保健室以外で過ごす姿を観察した情報を踏まえて見立てる。また健康相談活動を進める中で、生徒理解が深まり、見立てがより明確になった場合は、再度シートを作成し、まとめ直した。

(3) 健康相談活動の目的を決定する

見立てを参考に、「自分らしい意思決定・行動選択」を働きかける健康相談活動を行うために、目的を4つの中から選択する。目的を複数選択した場合は、段階的に進める。

例えば、自分に負担をかけすぎている生徒と見立てた場合、物事の優先順位をつけられるようになってほしいと考え、「D生徒が自分でできる範囲内の解決策を考えられるようにする」ことを目的とした。

(4) 方針を設定する

方針は生徒に応じた具体的な支援策を考えるために設定する。方針を設定することで一貫性のある支援策を考えられる。

(5) 具体的な支援策を考える

シートの活用による見立てと目的、方針を基に、具体的な支援策を考える。

例えば、ストレスの原因が分からない生徒には、ストレスの原因を明らかにするために、付箋で可視化することを具体的な支援策の1つとして考えた。

6 具体的な支援策の実際

シートを活用した事例の中には、不定愁訴の事例と健康課題が明らかになっている事例があった。

シートを活用した健康相談活動において、養護教諭の言葉で生徒の気持ちや状況を明確化し伝えることで、生徒が心的要因に気付くことができた。そして自分ができる範囲内の解決策を考えることができたが、行動を起こすことに躊躇する生徒もいた。養護教諭が心の苦しさは体調に影響すると時間をかけ丁寧に伝えることで、生徒は身体的不調が心的要因によるものと自分の事として捉えることができた。そしてなりたい状況を考え、自分ができる範囲内の解決策を考え行動にうつした。また、周囲に相談ができなかった生徒の場合は、養護教諭だけでなく、周囲の教員に相談することができた。さらに生徒によっては、心的要因によるものと自分の事として捉えると、他の要因に対して、養護教諭の働きかけがなくても、なりたい状況や解決策を自分自身で考え行動することができた。担任と学年の教員から学校生活や学習等に前向きに取り組むようになったと報告があった。

一方、体調不良によるこれまでの来室の様子から、シートの裏面を活用し経過を追って生徒の様子を保護者に伝えたことで、身体的不調は心的要因による可能性があることを共有することができた。

7 事後調査

(1) 目的・方法等

事後調査の目的等は第4表のとおりである。

第4表 事後調査の対象と目的

	対象	時期	目的
質問紙調査	教員	令和2年10月末～11月初旬	シートを活用した生徒の情報活用と生徒の行動変容を把握
	養護教諭		シート活用前後の健康相談活動の取組の変化と生徒の行動変容を把握
聞き取り調査	研究における事例に関係する教員		シートを活用した生徒に対する見方と対応の変化を把握
	養護教諭		シートを活用した健康相談活動の実践状況を把握

(2) 結果

教員に質問紙調査を行った結果、不定愁訴の事例に

関係する教員において情報を生徒指導・支援に活用していることが分かった。事前調査では活用はなかったが事後調査では生徒と教育相談を実施した、事前調査と事後調査のどちらでも情報を活用した、事前調査では声かけのみだったが事後調査では場を設けて教育相談をした、との記述があった。このことからシートを活用した生徒の情報で、教員の生徒理解がさらに進み、対応にも変化があったと考える。

養護教諭の質問紙調査には、「継続して来室がある場合に今までの話の流れを確認しながら対応することができたため、生徒の体調不良の原因や背景を多方面から考えることができた。今まで『〇〇の授業の時間に来室が多い、この授業が苦手なのだろう』と捉えていたものも、シートに記入していくことで、その裏に隠れているものを考えるようになった」や、「生徒の話を受け止めて聞くことで終わらず、シートに記入して話を整理することで、生徒へ次の段階のアドバイスにつなげることができた。今日はこの話、今日の目標はこれ、と話を焦点化しやすくなった」という記述があった。このことから、シートの活用により生徒理解が深まり、生徒に適した対応に変化したことが分かった。「自分らしい意思決定・行動選択」につながる工夫としては「生徒の気持ちを見える化した。生徒は『自分にとって“楽しいこと”がこんなにたくさんあるんだ』と気付くことができた。悩みをしまいこんでいると体調に影響すること、生徒がどうしたら心が楽になるかを養護教諭は時間をかけて話を続けた結果、生徒から『外部機関で相談をしたい』という言葉が出てきた」という記述があった。工夫として、心と体がつながっているということを伝え続けることと生徒の気持ちを可視化することを行った結果、生徒が新たに解決に向けた行動を考えることができた。このことから「自分らしい意思決定・行動選択」につながったと養護教諭は捉えていることが分かった。

聞き取り調査はシートを活用した事例に関係する教員から行った。結果を第5表に示した。

第5表 聞き取り調査の結果

生徒の見方の変化	<ul style="list-style-type: none"> ・以前と比べ明るい印象が変わった ・生徒の言動をサインとして受け止めるようになった ・生徒の状況を理解し頑張っている印象が変わった
生徒対応の変化	<ul style="list-style-type: none"> ・養護教諭と役割分担をした ・以前より生徒と話をする機会が増えた

関係する教員からの聞き取り調査では、情報があることで、関係する教員が生徒の言動をサインとして受け止める等、生徒の見方に変化があり、学年会での話し合いや教育相談の実施等、対応にも変化があった。

養護教諭からの聞き取り調査では、「シートがある

ことで、生徒の話が整理され、『自分らしい意思決定・行動選択』を働きかける健康相談活動の目的や方針を意識しながら、どのように支援するか考えることができた。またシートに情報をまとめてあるため、関係する教員と情報を共有しやすくなった」と述べている。

新しい環境に馴染めなかった生徒には、思春期を迎えると誰でも心と体に変化が起きることを丁寧に説明することで、自分の心的要因に気付くことができた。またその後の来室で生徒から、生徒自身も自分の変化を実感していること、居場所ができたと報告があった。このことから生徒自ら「自分らしい意思決定・行動選択」ができるようになる働きかけを通して健康相談活動の充実を感じた。

研究のまとめ

1 研究の成果

不定愁訴のある生徒に対し、シートを活用し、生徒自ら「自分らしい意思決定・行動選択」ができるようになる働きかけを通して健康相談活動の充実が図れたのではないかと考える。

養護教諭はシートを記入しながら、話を聞くことで生徒を客観的に見ることができ、生徒の話にペースを合わせることやなずきを効果的に使い、会話を促すことができた。生徒は今まで誰にも話さなかった自分の気持ちや状況を話すことができ、養護教諭は生徒が話す言葉と表情や仕草などの非言語の両方から生徒理解を深められた。そしてシートの活用により、生徒の気持ちや状況を整理することで、見立てや目的、方針、具体的な支援策を考えることができた。

養護教諭はシートの裏面に健康相談活動の記録があることで、健康相談活動の目的や方針を念頭に生徒への継続的な対応ができたものと考えた。また、来室の間隔が空いても養護教諭は経過を確認し、目的や方針に沿った対応ができると考える。

不定愁訴のある生徒に対し、養護教諭がシートを活用した健康相談活動を行うことで、生徒は身体的不調の要因は心的要因によるものと自分の事として捉えられたのではないかと考える。そして「自分らしい意思決定・行動選択」を行うことができたのではないかと。すなわち、シートの活用により、健康相談活動の充実が図れたのではないかと考える。

前述の「文部科学省 2017」で示されていた「自分について見つめたり、考えたりすることを支援する」ことにおいてもシートを活用した健康相談活動が有効ではないかと本研究の成果から考えられる。

本研究では生徒が「自分らしい意思決定・行動選択」ができるように養護教諭が行う健康相談活動の充実を図ることを目的としたが、シートに記入し、まとめた生徒情報により、生徒の気持ちや状況について理解が

深まり、共通理解ができ、校内連携についても充実を図れた。

不定愁訴以外の事例においても、養護教諭はシートを活用した健康相談活動を行い、医療機関へつなげたり、自己理解を進めたりすることができた。健康課題の背景が明らかになっている生徒に対しても、シートを活用することで、具体的な支援策につながる充実した健康相談活動が行えるのではないかと考える。

シートは、養護教諭が活用できるように作成したが、生徒情報をまとめやすいため、生徒理解が深まり、見立てや目的、方針が考えやすくなり、他の教員でもケース会議等で活用し、校内支援の充実につながると考える。

2 研究の課題と今後の展望

今回の研究では健康相談活動の目的「B気持ちに折り合いをつけられるようにする」ことについてシートを活用しても成果を見取ることができなかった。しかし「B気持ちに折り合いをつけられるようにする」ことは「自分らしい意思決定・行動選択」をする過程の中で必要があることから、今後はどのような実践が有効か検討したい。

シートを活用して健康相談活動を行った結果、シートの再考が必要だと考えた。健康相談活動が進む中で、新たな情報を記入することがあったため、日付を記入する欄や枠のサイズの見直しである。さらに誰にでも分かりやすいシート項目の表記を考えたい。またシートを活用した事例全てで、目的を複数選択していたため、目的ごとに方針が記入できるように欄を設ける等検討し、さらに活用しやすいシートを考えたい。

本研究では、生徒が「自分らしい意思決定・行動選択」ができる働きかけを健康相談活動の中で行った。さらに今後は教育活動の様々な場面でも「自分らしい意思決定・行動選択」を働きかけることに取り組みたい。

シートを活用し、生徒理解が深まったが、具体的な支援策の共通理解を教員間で図る時間を確保することが難しく、それぞれの立場での支援になった。シートの活用により生徒を多面的に理解し、チームとして支援を行うために、今後養護教諭がコーディネーター的な役割を果たすことで、組織的に支援していく強固な校内支援体制づくりに寄与していきたい。

おわりに

本研究の成果をいかし、健康相談活動シートを活用し、一層健康相談活動を充実させていきたい。今後は健康相談活動の中で「自分らしい意思決定・行動選択する力」だけでなく、「心身の健康に関する知識・技能」「自己有用感・自己肯定感（自尊感情）」「他者

と関わる力」を育成したいと考える。最後に御多用の中、研究に協力いただいた所属校の教員の皆様に深く感謝申し上げます。

引用文献

- 文部科学省 1997 「生涯にわたる心身の健康の保持増進のための今後の健康に関する教育及びスポーツの振興の在り方について」
- 文部科学省 2017 「現代的健康課題を抱える子供たちへの支援～養護教諭の役割を中心として～」
- 菊池美奈子・池川典子 2018 「養護教諭が行う健康相談・健康相談活動の継続支援のプロセスの初期段階—中学校・高等学校の養護教諭インタビュー調査から(1)—」(学校保健研究 60巻1号)
- 城所康子 2014 「中学校の養護教諭が行う健康相談活動を校内のチーム支援に生かすための研究—保健室来室者へのヘルスアセスメントの実践より—」(平成25年度 神奈川県立総合教育センター長期研究員研究報告 第12集)

参考文献

- 岩間伸之 2008 『逐語で学ぶ21の技法 対人援助のための相談面接技術』中央法規
- 森田光子・三木とみ子 2000 『健康相談活動の理論と方法』ぎょうせい